

「母ヶ浦の天満さま」

校長 内山 茂



先月、母ヶ浦天満宮の秋の例祭があり、私も招待を受けて参加した。当日は、あいにくの雨模様のため公民館で行われたが、会場には町内会長や氏子の方々が多数出席されていた。祭事後、地域の方々の持ち寄りの手料理が振舞われ、郷土の味に舌鼓を打ちつつ、皆さんの本校に対する思いなども聞くことができた。

その折、母ヶ浦天満宮は、もともと本校の野球場にあった事を聞いた。本校が日野から母ヶ浦に移転(平成7年)するに当たり、天満宮が現在地(野球場下)に遷座され、その時には太宰府天満宮から神官が来られて神事が行われたそうである。

天満宮は菅原道真公を神として祭った神社であり、公は「学問の神様」として崇拝されている。言わば、本校は「学問の神様」が鎮座された地に建てられた学校ということになる。私たちは、そのことを誇りとし、同時にそれを汚すことのないように努めなければならない。

母ヶ浦の方々は、本校生が部活動で頑張り、元気にあいさつをする姿等を温かく見守ってくださっている。加えて、自分たちが長年祭ってきた天満様(菅原道真公)の地で学ぶ生徒たちが勉学に励むことを切に願っておられることと思う。佐実生の活躍に期待する思いは、親・教職員のみならず、地域住民の皆さんも同じだということを知り、胸熱くなるものを感じることができた。ありがたいことである。

前期反省と終業式及び後期始業式から

前期反省を学校評価(生徒アンケート)からみると、アンケート項目22項目中、20項目で昨年度前期比、満足度をあらかず数値が向上しています。これは、昨年度の反省を生かして取り組んだ今年度の諸活動の成果であると考えられます。一方で、一部の生徒ではありますが、授業中の態度や学校生活の落ち着きの無さ、問題行動で特別に指導を要する生徒がいたことは残念であり、今後の課題です。後期始業式で校長先生が、「本校に入学して、一所懸命努力すれば、誰でも卒業できる学校にしたい。学習、部活動、マナー・ルールを身に付けさせ、自信を持って社会へ送り出したい」と話されました。本校生の自律した生活が望まれます。

校長先生の思いを佐実生一人ひとりが、いかに自覚するかが大切です。

「長崎がんばらんば国体」- 本校の選手2名が入賞!

10月12日(日)、45年振りとなる「長崎がんばらんば国体」の開会式が、諫早市の県立総合運動公園陸上競技場で盛大に開催されました。

オープニングセレモニーには、本校1年生の松本 啓汰君も参加しました。

競技においては、ボクシング競技出場の尾崎 誠哉君(3年)が3位入賞。弓道競技に出場した松尾 凌馬君(2年)が遠的団体8位に入賞するなど、素晴らしい活躍を見せてくれました。

また、選手以外でも、日頃のキビキビした態度が評価された男・女バレー部員に補助員として声がかかり、男子6名がボールリトリバー、女子15名がラインズマンとして、スムーズな大会運営に貢献してくれました。

この貴重な体験を、今後の学校生活にも活かして欲しいと思います。

第47回体育祭 - 「STORY~喜びを、未来に繋ぐ物語~」

10月7日(火)、順延となった体育祭が秋晴れの中、開催されました。

当初、5日(日)に予定されていましたが、台風の影響で風が強く、テントが舞い上がる程の強風のため延期となりました。その分、体育館で練習をした成果もあり、各ブロックが一致団結し、素晴らしい体育祭になりました。

準備による時間短縮のため、いくつかの競技が削減されたものの、全ての競技に全力で取り組む生徒たちの姿が印象的でした。

育友会会長賞(男子クラス対抗リレー・女子学年対抗リレー)で3年6組男子と1年の女子。同窓会会長賞(応援・パネル)と振興会会長賞(全校行進)は「赤組」。理事長賞(総合優勝)は「青組」が授賞しました。



全通併修教育について(紹介)

「全通併修」とは、卒業に必要な単位(74単位)の一部をNHK学園高校通信制課程で履修・修得する全国初の教育制度です。

高校教育課程を修得したいと願う、様々な事情を抱える生徒のニーズに応じています。特色としては、科目の選択肢が拡がり、多様な学びができます。また、自分のペースに合った学びができ、自分をゆっくり育てることができます。

学習の進め方は、「教室での授業とNHK高校講座を組み合わせ、自分用の教育課程をデザインする」・「卒業という高校教育の山頂を目指して、ある科目は基礎からじっくり、ある科目はより高いレベルに挑むなど、ペース配分していく」・「少しずつ集団に溶け込みながら、高校教育が担う発達課題(学業、進路、人間関係、健康、社会規範等)をこなし、ゆっくり着実に自分を育てていく」という手法で、生徒の自立に向けた教育を行っています。